

原子力安全推進協会の主な活動概況

平成26年2月12日

一般社団法人

原子力安全推進協会

世界最高水準の安全性の追求
～たゆまぬExcellenceをめざして～

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



原子力安全推進協会の主な活動概況

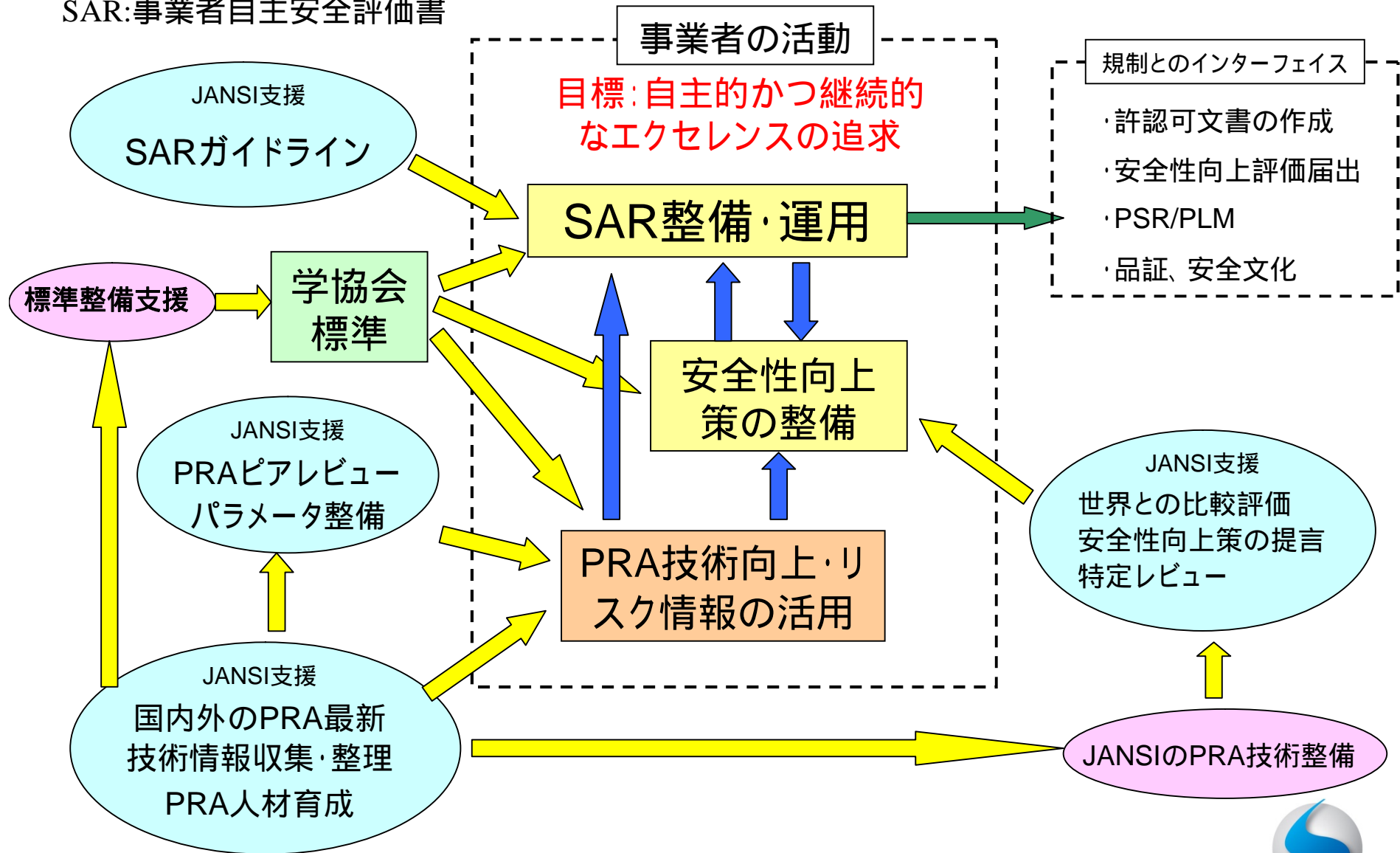
安全性向上対策の評価と提言・勧告及び支援の全体像
シビアアクシデント(SA)対策の調査・評価
事業者自主安全評価書(SAR)の構成
PRA活用の体制整備のためのJANSIの活動
ピアレビューによる安全性向上への取り組み
連絡代表者(SR)の取組み
5ヵ年計画 2013-2017 -10年後を見据えて-

- ・「JANSI Annual Conference 2014 for Step up」
開催について



安全性向上対策の評価と提言・勧告及び支援の全体像

SAR:事業者自主安全評価書

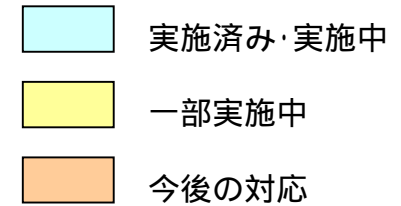


世界最高水準の安全性の追求
~たゆまぬExcellenceをめざして~

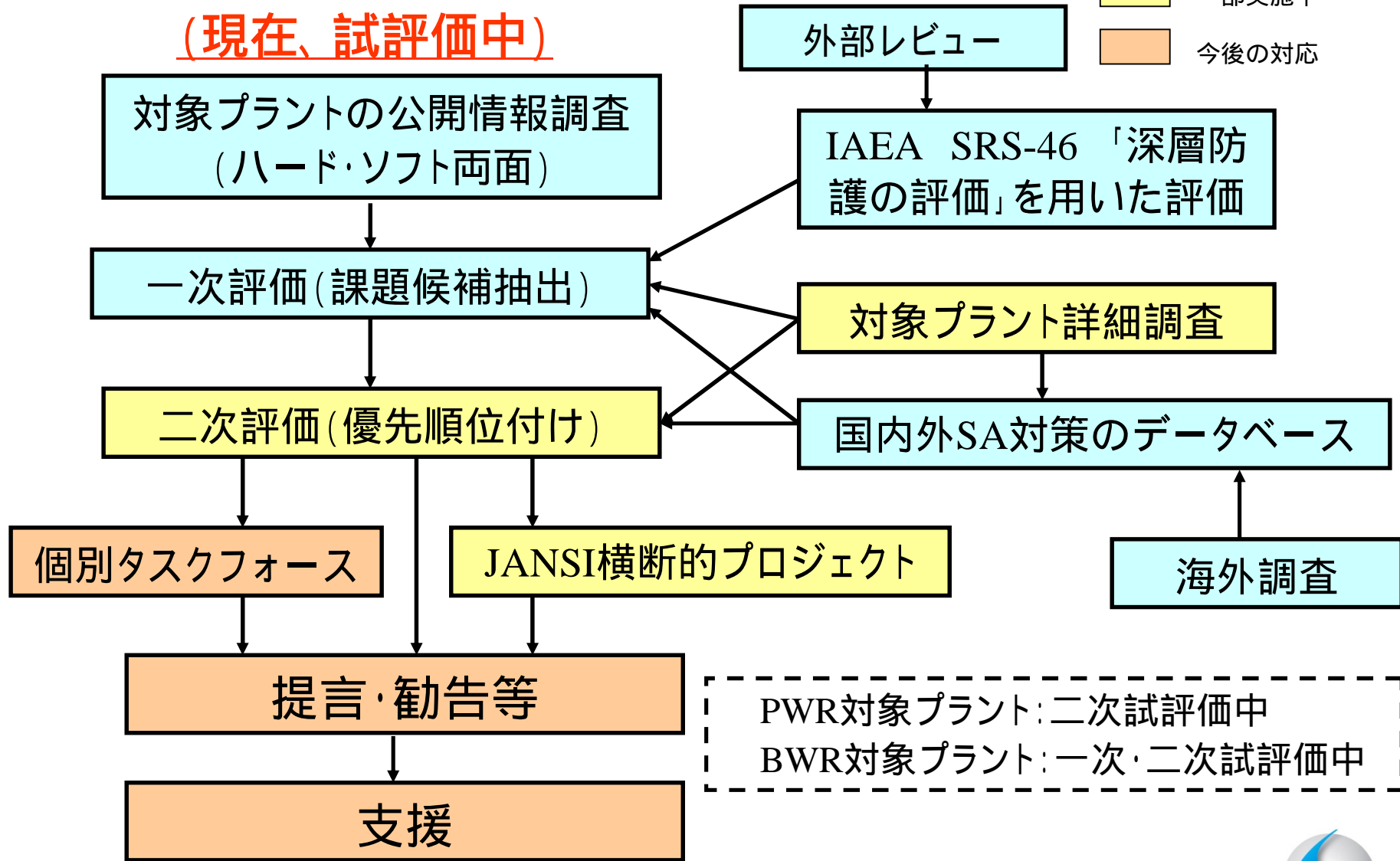
一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



シビアアクシデント(SA)対策の調査・評価

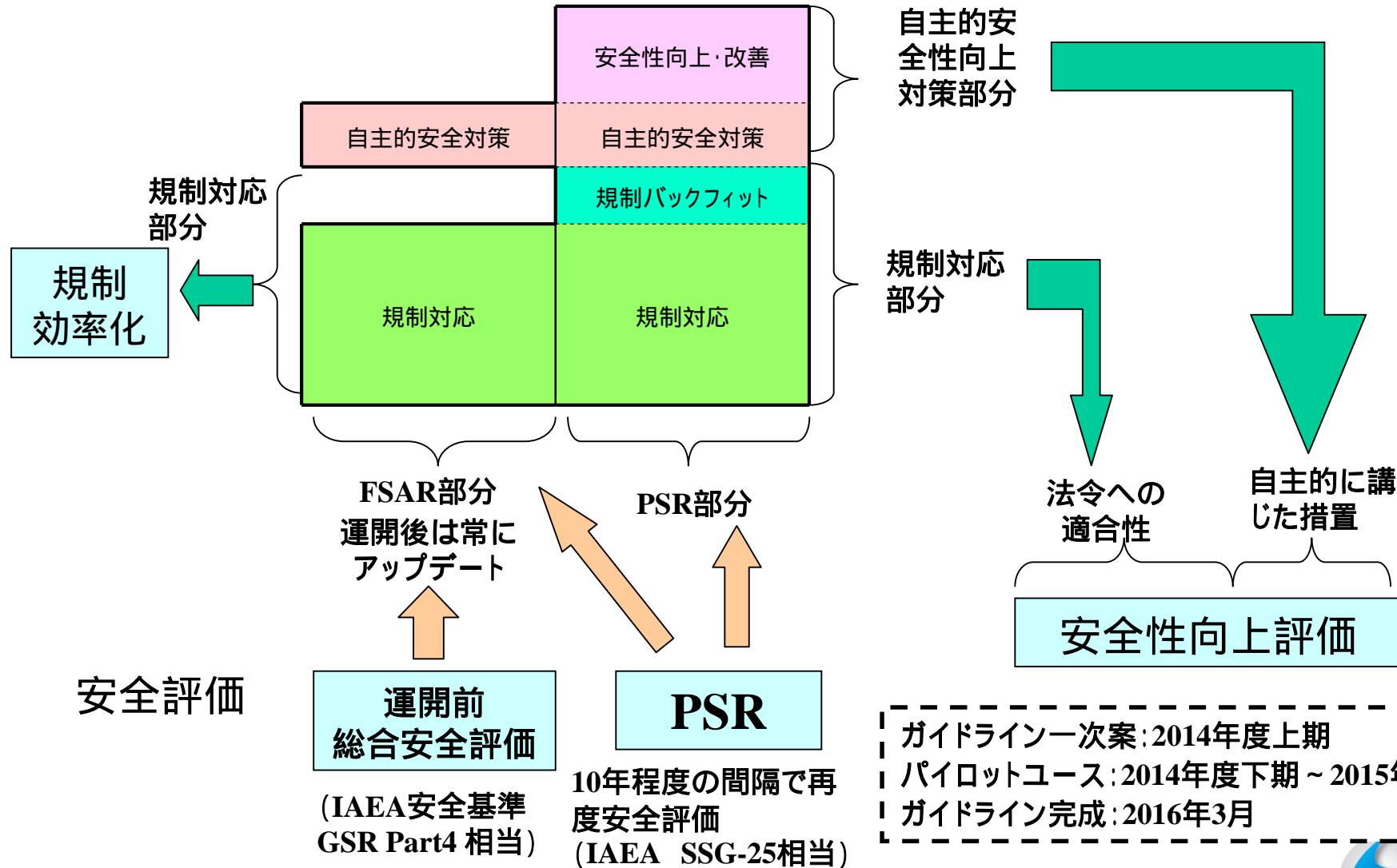


(現在、試評価中)



事業者自主安全評価書 (SAR) の構成

事業者自主安全評価書 (SAR)

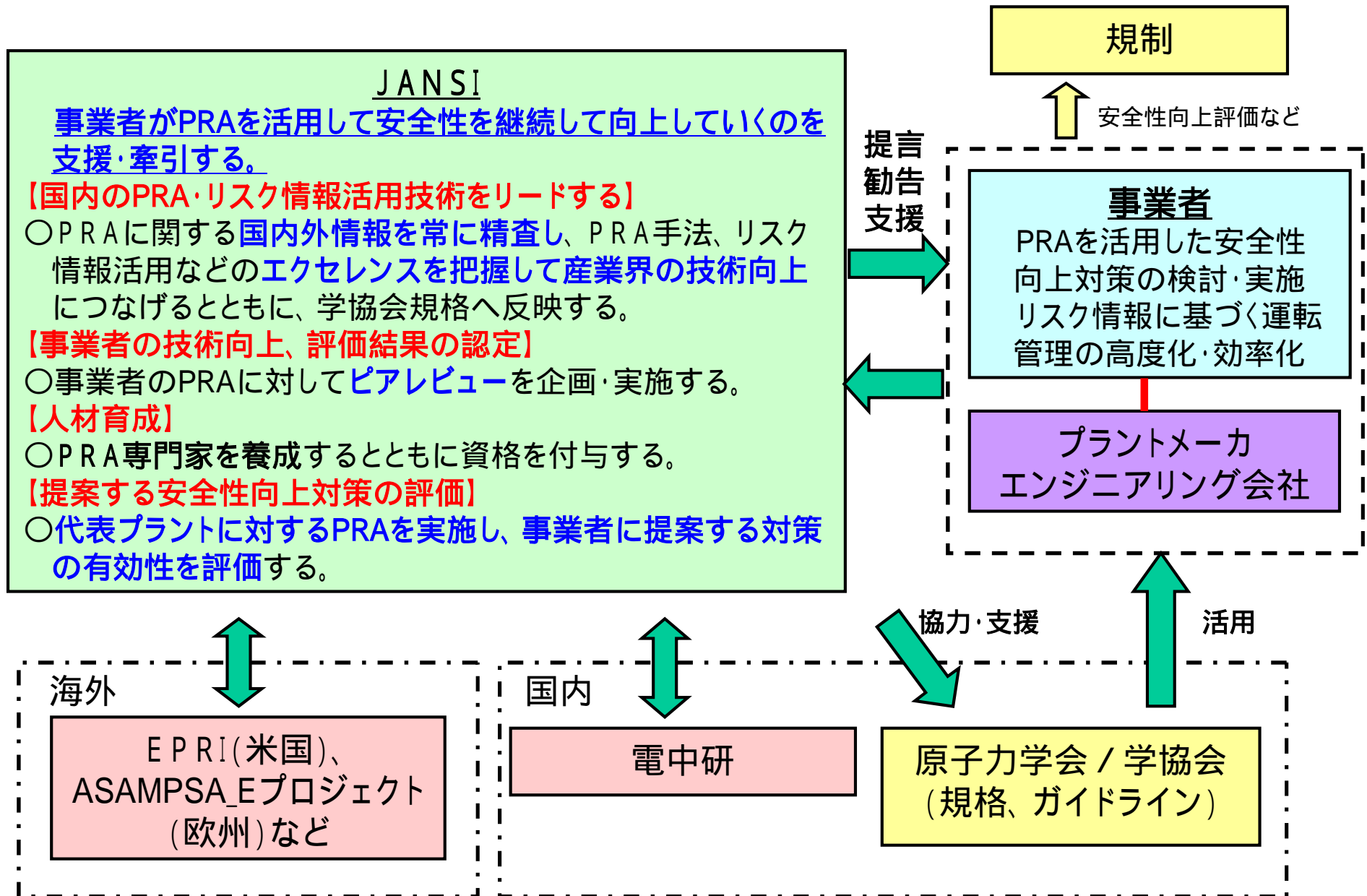


世界最高水準の安全性の追求
~ たゆまぬ Excellence をめざして ~

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



PRA活用の体制整備のためのJANSIの活動



ピアレビューによる安全性向上への取り組み

“産業界自主規制組織” JANSIピアレビューの役割

- 原子力発電所の運営・管理について、「達成すべき目標とその基準」()とのギャップを見出し、発電所とともに改善すべき課題を明らかにする評価の実施
- 事業者間で共有すべき良好な取り組み事例の抽出
- 改善すべき課題を事業者トップに直接伝え、トップ自らが改善の取り組みに關与する仕組みづくり
- ()世界原子力発電事業者協会(WANO)の基準等を参考



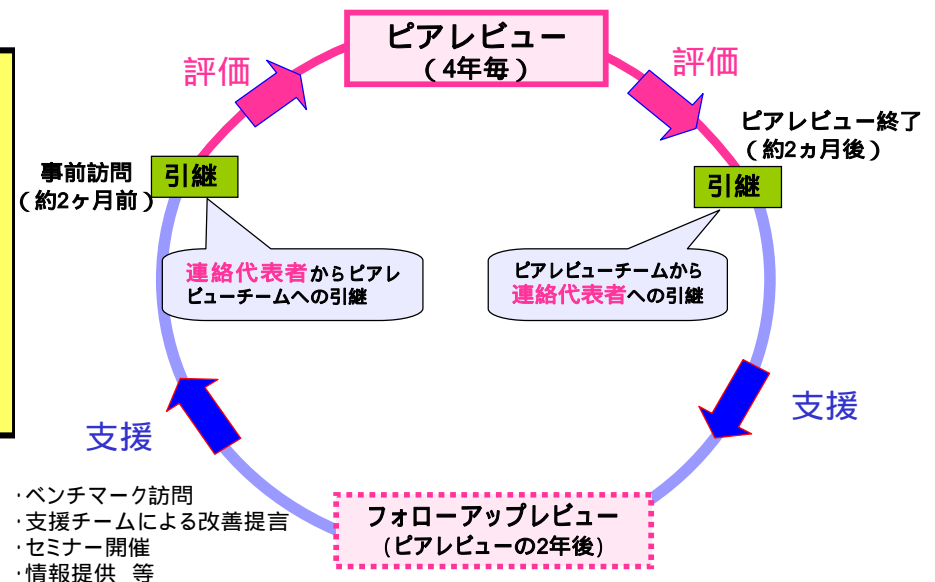
JANSIピアレビューの目指すべき姿

- 規制レベルの達成にとどまらず、事業者が常に高み(エクセレンス)を目指す活動の促進・牽引
- “評価と支援のサイクル”による事業者自主的改善活動への継続的な關与
- 自主規制組織としての“独立性および信頼性”の確保



世界最高水準の安全性・信頼性の追求

世界最高水準の安全性の追求
～たゆまぬExcellenceをめざして～



一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



連絡代表者(SR)の取組み

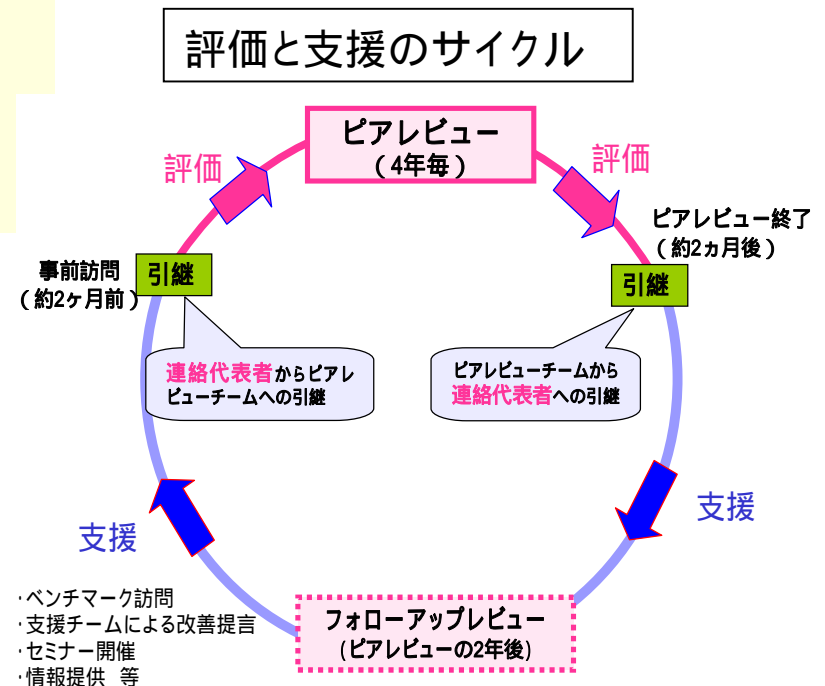
評価と支援のサイクル

ピアレビューによる**評価**に続き、事業者の安全性向上活動に対する**支援**により、事業者の継続的改善を促す。

連絡代表者:SR(Senior Representative)

- ・当協会から発電所等への支援の窓口として昨年7月に配置。

- ・SRは、発電所等への定期的な訪問や連絡により発電所等幹部との緊密なコミュニケーションを図り、現場の運営状況を確認するとともに、現場支援ニーズの抽出等を行った上で、当協会からの支援を取り纏め適切な支援を実施。



5カ年計画 2013-2017

- 10年後を見据えて -

1 序文

- 当協会は、平成24年11月15日発足
- INPOを参考に安全性と信頼性の向上に取り組む。
- 遅くとも5年後までにすべての活動を本格的な軌道に乗せる。
- なお、本5カ年計画は、3年目に中間見直し、5年目に本格改定を行うローリングプラン。



2-1 ミッション/ビジョン

(1) ミッション

日本の原子力産業界における、
世界最高水準の安全性の追求
～ たゆまぬエクセレンスの追求～

(2) ビジョン

原子力施設の安全性向上対策と施設運営を継続的に評価する。

原子力安全における基準となるエクセレンスを明確化し、事業者に提示する。

事業者エクセレンスを求めると同時に、自らにもエクセレンスを求める。



2-2 ミッション/ビジョン

(3) 10年後の姿

安全性向上対策

事業者はその時点での原子力施設の安全性向上対策に満足することなく、更なる安全性向上に取り組んでいる。

JANSIIは、すべての原子力施設の安全性向上対策について、国際動向や世界の有識者の意見等を参考に継続的に評価し、適切に提言・勧告を発出し、支援することにより原子力施設の安全性向上に貢献している。

原子力施設の運営

事業者は自主保安活動を活性化させて、原子力施設の運営における安全性の向上に日々取り組んでいる。

JANSIIは、すべての原子力施設の運営について、世界原子力発電事業者協会(以下、「WANO」という)、INPOの活動と連携を取り、国際的な視野で継続的に評価し、適切に提言・勧告を発出し、支援することにより原子力施設の安全性向上に貢献している。

JANSIIへの評価

- () 事業者から高く評価され信頼されるプログラムを確立している。
- () 原子力施設に対する的確な評価と安全上の課題の先取りにより、更なる原子力安全向上に繋げている。
- () レビュー能力を身に付けた専門家を十分に育成・確保している。
- () わが国の原子力産業界の安全文化を高いレベルに維持することに貢献している。
- () 常に自らの活動の質的な向上に努めている。



3 組織運営・管理の特徴

- (1) 代表への専決権限の付与(勧告・提言)
- (2) 国際アドバイザー委員会、技術評価グループの設置
- (3) 特別会員代表者会議の設置
- (4) 評議委員会、運営委員会の設置



4-1 活動方針

(1) 協会の主要な運営方針

事業者CEOと意識を共有する。

独立性を堅持する。

海外の機関・組織・有識者と連携し、最新
知見を取り込む

事業者と情報を共有する。

優秀な人材の確保と人材の育成に努める。



4-2 活動方針

(2) 活動への主要な取組方針

エクセレンスを明確にする。
現場の安全性向上に力点を置く。
原子力産業界全体として取り組む。
科学的、合理的な情報を積極的に発信する。

(3) 外部組織への主要な対応方針

民間規格の整備促進に貢献する。
規制と適正な補完関係を構築する。
国内の関係機関と適正な協力関係を結ぶ。



5 組織横断的活動

(1) 外部からの依頼に基づく組織横断的な活動

会員からの支援要請に基づく組織横断的な活動は緊急性や重要性が高いため、通常のライン業務に優先して取り組む。

(例) 日本原子力研究開発機構「もんじゅ」に対する支援

(2) 当協会の活動の中で必要と判断するテーマに対する組織横断的な活動

当協会の活動の中で抽出したテーマについては、組織横断的な活動として効率的に実施する。

(例) 福島第一事故を踏まえた事故調報告等の教訓(指摘事項)への特別会員各社の対応とJANSIの支援活動



6-1 個別主要項目(5年後の姿)

(1) 安全性向上対策の評価と提言・勧告および支援

シビアアクシデント対策の整備

発電所のシビアアクシデント対策の評価と充実のための提言等はすべて完了。世界の良好事例を継続的に入手し、更なる充実を目指す。また、代表プラントの確率論的リスク評価(PRA)により提言等の有効性を確認している。

火災防護等の個別課題対策の整備

全発電所の火災防護対策の評価が終了し、更なる充実を目指す。発電所の経験を基にサイクル施設の評価を開始。また、その他の個別課題についても順次取組を開始している。



6-2 個別主要項目(5年後の姿)

(1) 安全性向上対策の評価と提言・勧告および支援

事業者自主安全評価書(SAR)の作成・運用

各原子力発電事業者ともJANSIのSARガイドラインをベースに作成したSARを基に、自らの安全性向上に努めると共に規制対応に活用している。

PRAの体制整備

原子力発電事業者ではSARの運用、発電所の設備設計や運営にPRAが活用されており、JANSIはPRAの適切な運用のため、PRAピアレビューの運営、人材育成、最新知見の反映等を支援している。更に、発電所の経験を基にサイクル施設に関する支援を開始している。



6-3 活動の主要項目(5年後の姿)

(2) 原子力施設の評価と提言・勧告および支援

ピアレビューの実施/エクセレンスガイドラインの作成

レビューワー等の育成システムが軌道に乗り、エクセレンスガイドラインも整備され、2年毎のピアレビューを開始。その評価結果も参考にインセンティブを考慮した発電所の総合評価を試行。

安全文化評価・支援活動

安全文化アセスメントが定期的に行われ、各施設の安全文化醸成活動に活用されている。また、事業者だけではなく、メーカー、協力会社においても安全文化醸成活動が積極的に展開されており、JANSIもこれを支援している。

連絡代表者(SR)を窓口としたプラント支援

JANSI内のSR支援体制が整備され、SRはピアレビューの評価結果への支援や発電所及びサイクル施設からの支援要請に的確に対応している。



6-4 活動の主要項目(5年後の姿)

(2) 原子力施設の評価と提言・勧告および支援

情報分析活動の充実

各種トラブル情報を分析し、JANSIは対策も含め適切にOE文書を発行し、再発防止を支援している。また、規制当局と有効な意見交換が行われ、適正な規制の運用に貢献している。

民間規格の整備/電力共通技術基盤の拡充

安全上の重要な規格基準はほぼ整備され、その定期的な見直しが行われている。JANSIは海外機関や海外の有識者から最新知見を入手し、規格基準、自主的ガイドラインへの反映に努めている。また、電力共通基盤が整備され、事業者は保全に有効活用している。



6-5 活動の主要項目(5年後の姿)

(2) 原子力施設の評価と提言・勧告および支援

人材育成システムの構築

経営層、幹部を対象とする研修、運転員・SA要員の人材育成等が軌道に乗り、その他の現場技術者の技術力の維持向上に向けて、認定制度等の検討を開始。

原子力防災訓練支援

実態に合った防災訓練が各発電所及びサイクル施設で実施されており、JANSIは事業者間の良好事例の共有や課題解決に取り組み、また海外の良好事例を事業者に提供し、より質の高い訓練が行われるように支援している。



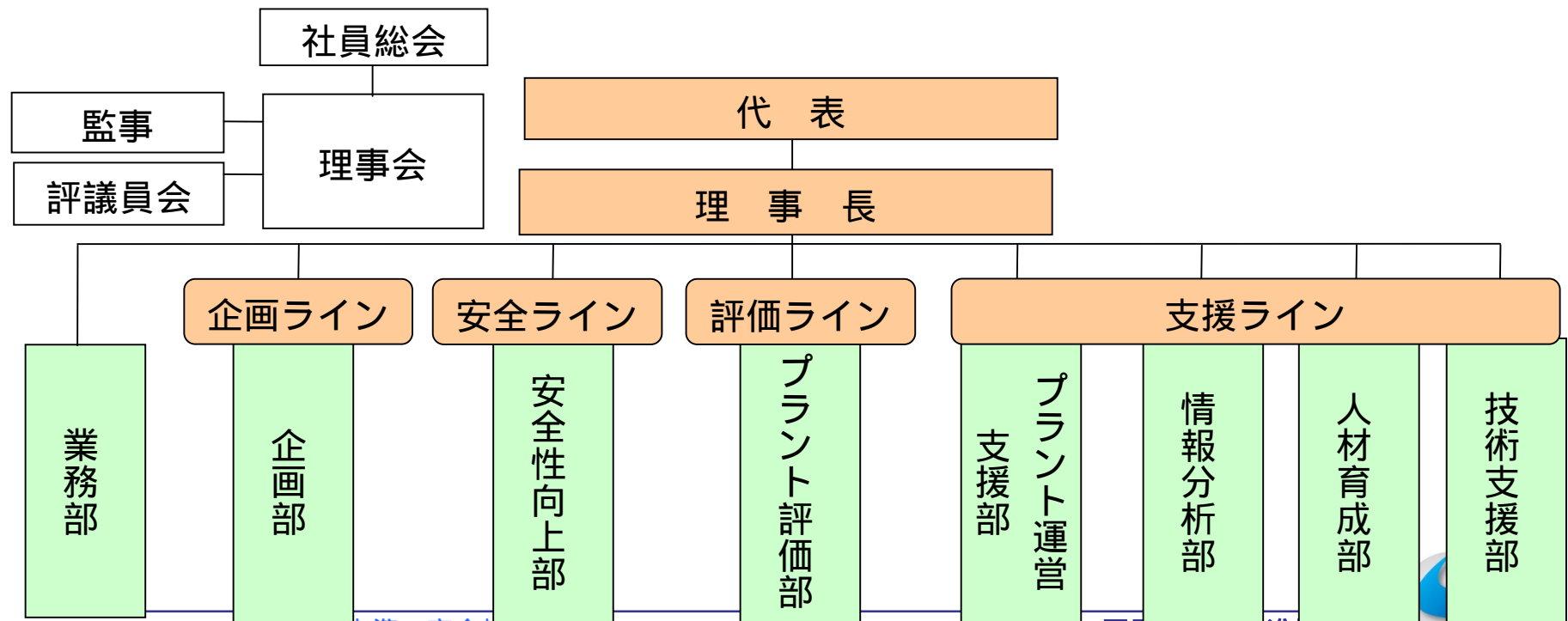
参考資料

原子力安全推進協会の概要
海外との連携
国際アドバイザー委員会、
技術評価グループ



原子力安全推進協会の概要

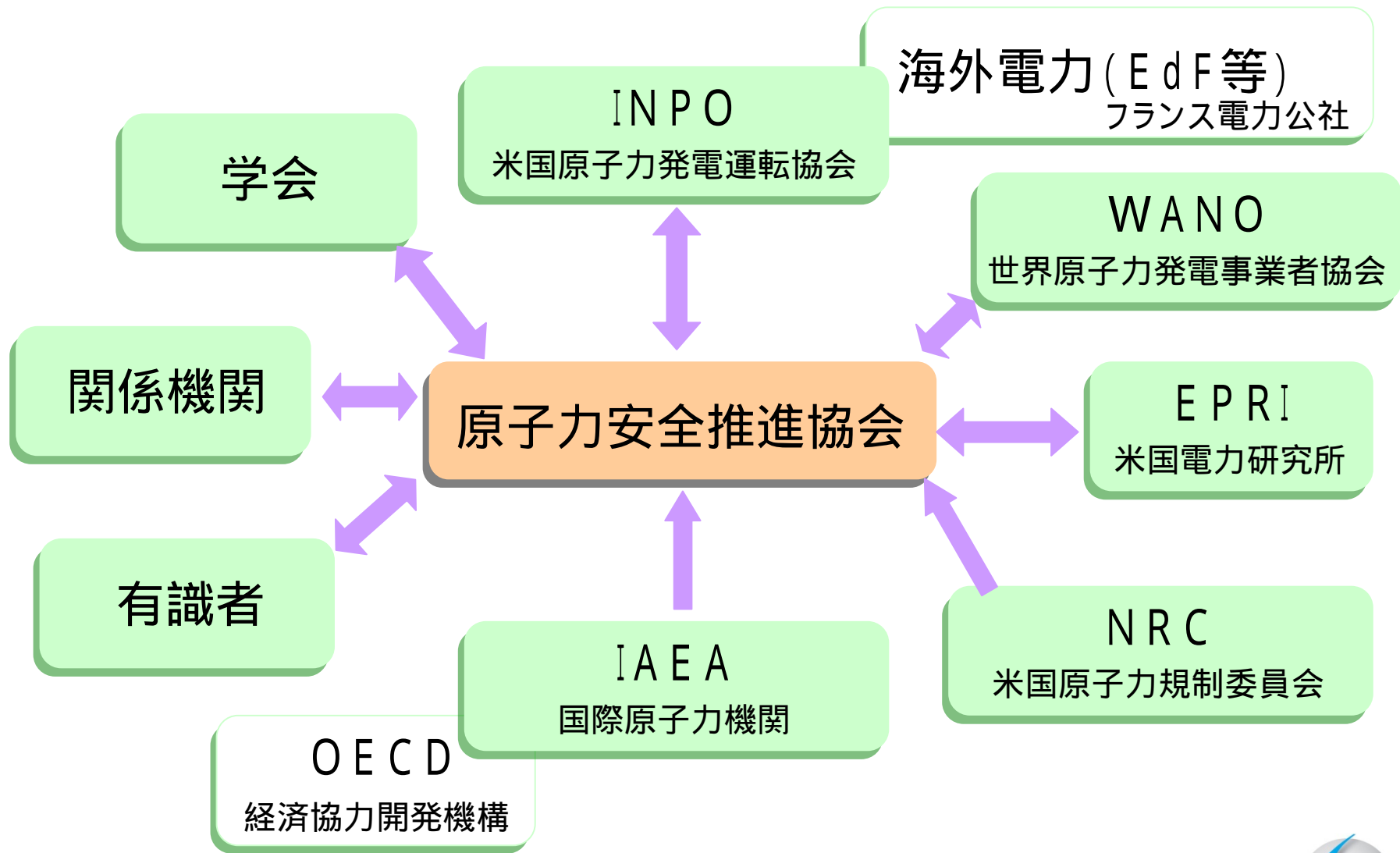
- 【組織名】 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute (JANSI)
- 【所在地】 東京都港区芝5丁目36番7号 三田ベルジュビル13～15階
- 【設立年月日】 2012年11月15日
- 【職員数】 約150人 (2014年2月1日現在)
- 【組織図】



世界最高水準の安全性の追求
～たゆまぬExcellenceをめざして～

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute

海外との連携



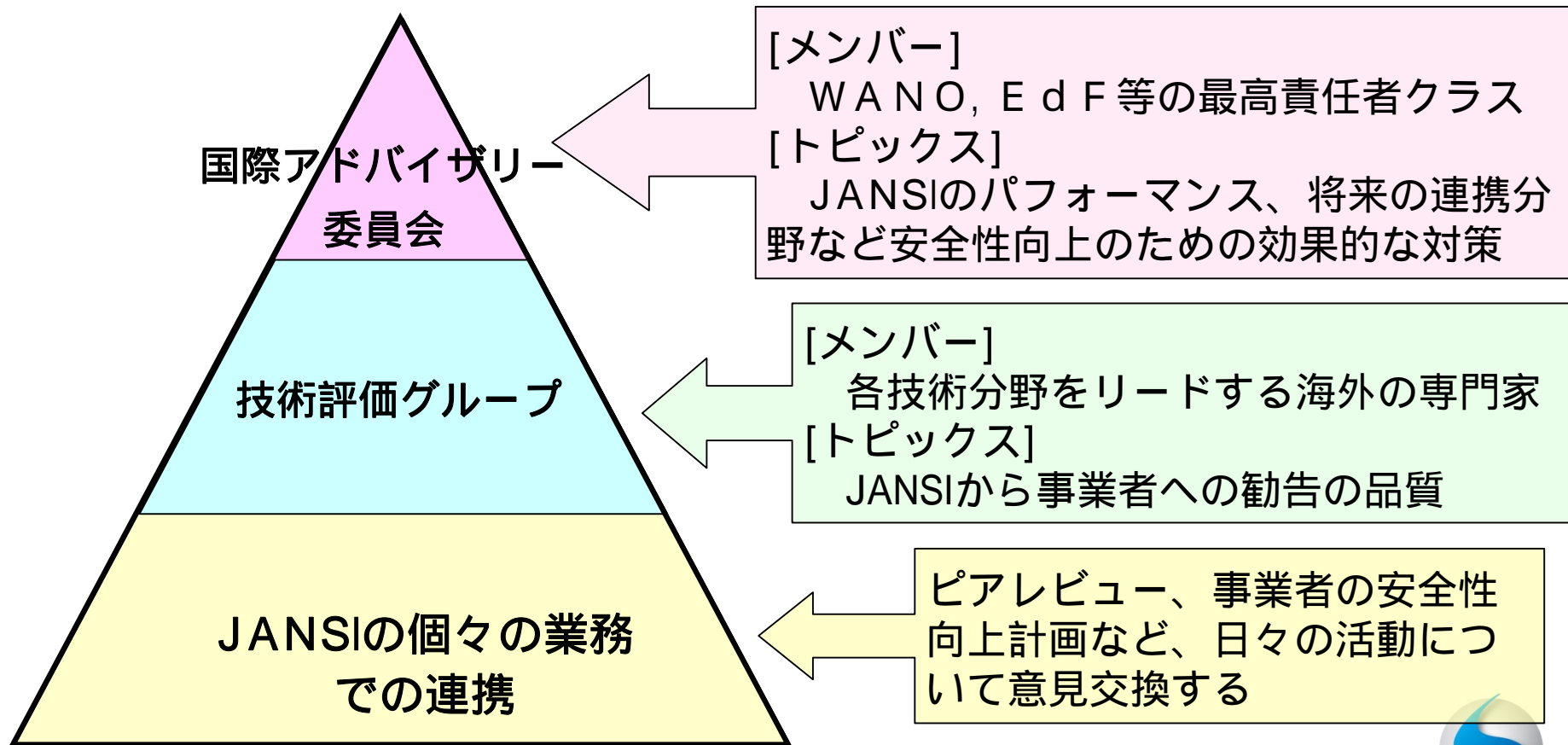
世界最高水準の安全性の追求
～たゆまぬExcellenceをめざして～

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



国際アドバイザー委員会、技術評価グループ

経営幹部から実務者レベルの各段階で、海外機関との連携強化を図り、経営全般について意見交換を行うとともに、国際水準に照らした技術的知見の客観性・先端性の向上を図る



世界最高水準の安全性の追求
～たゆまぬExcellenceをめざして～

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute

